

スマートフォンの保有率格差

わが国におけるスマートフォンの個人保有率は、2017年時点で60.9%と、携帯電話の29.3%を大きく上回る。今やスマートフォンはモバイル端末の主流といえる。

しかし階層別にみると、必ずしもスマートフォンが中心でない層も存在する。年齢階層別には、59歳以下でスマートフォンの保有率が高い一方、60歳以上では携帯電話の方が高く、特に70歳以上は大半が携帯電話を使用している。また、所属世帯の年収階層別には年収200万円未満の層で携帯電話の保有率がスマートフォンを上回り、200～400万円未満の層でも4割近い保有率となっているなど、現在もなお携帯電話は主なモバイル通信手段である。

この背景として、一つは年齢が高くなるほど機能面でスマートフォンを使うメリットが薄くなることであろう。総務省「平成29年通信利用動向調査」によると、20～29歳のスマートフォン保有層の主な利用目的（複数回答）は「ソーシャルメディア・メール送受信」77.0%、「インターネットの検索等」76.8%、「動画・音楽視聴」71.0%、「ネットショッピング」62.6%の順である。これに対し65歳以上は「ソーシャルメディア・メール送受信」64.3%、「インターネットの検索等」46.4%、「万歩計や血圧測定等」22.4%の順となっており、若年層に比べ利用目的は限られ、スマートフォンの機能を十分に活用していない。

もう一つは、所得が低い層に関しては、利用料金の差が影響している。大手キャリア3社の月額ベースの利用料金（除く端末代金）は携帯電話の2,262円に対しスマートフォンは5,680円である（2018年9月現在。株）MM総研調べ）。

経済のデジタル化に伴う新サービスがスマートフォンを軸に提供される現状では、スマートフォン保有の有無が新たな情報格差（デジタル・デバイド）に結びつきかねない。スマートフォンにおいては、その利用価格引き下げと同時に、操作性の更なる改善も望まれる。（商工総合研究所主任研究員 江口政宏）

モバイル端末（携帯電話とスマートフォン）の個人保有率（2017年）

年齢階層別	（%）				所属世帯の年収階層別	（%）			
	モバイル端末		保有して いない	保有して いない		モバイル端末		保有して いない	保有して いない
	携帯電話	スマート フォン					携帯電話		
20～29歳	96.9	9.2	94.5	3.1	200万円未満	70.7	40.1	34.7	29.3
30～39歳	97.3	13.4	91.7	2.7	200～400万円未満	82.1	38.6	48.9	17.9
40～49歳	97.0	21.5	85.5	3.0	400～600万円未満	85.7	27.1	64.7	14.3
50～59歳	95.4	31.1	72.7	4.6	600～800万円未満	88.2	24.9	71.3	11.8
60～69歳	88.8	49.6	44.6	11.2	800～1,000万円未満	90.7	22.6	75.3	9.3
70～79歳	72.5	56.3	18.8	27.5	1,000～1,500万円未満	90.6	19.5	78.4	9.4
80歳以上	39.7	34.7	6.1	60.3	1,500～2,000万円未満	88.5	22.0	75.2	11.5
全年齢階層	84.0	29.3	60.9	16.0	2,000万円以上	90.7	17.7	78.3	9.3
					全年収階層	84.0	29.3	60.9	16.0

（資料）総務省「通信利用動向調査」

（注1）携帯電話にはPHSを含む

（注2）携帯電話とスマートフォンを両方保有する個人もいるため、両者の合計はモバイル端末保有率と一致しない